

マンションリフォーム特別賞しょう あきら(尚明賞)

講評:

大都市圏郊外の古い住宅開発地内に建つ、築後35年を経た公団分譲住宅の内部改装である。マンションリフォームの応募の多くは、家族構成が変わったので小部屋を大部屋に改めて、広く使いたいという要求のものである。しかしこの住宅のように壁式構造では、それが不可能である上に管理組合などの制約があってリフォームが困難だといわれている。一方住宅ストックの上では、同年代に建てられた同様のマンションが非常に多いという背景がある。

ひとり暮らしの施主(男性)の要望は、まず「寒さを何とかしてほしい」、そして「掃除しやすいこと」「出来合いの物はあまり使わない」ということであった。

設計者は、ひとり暮らしと割り切り、できるだけ部屋を区切らず広く見渡せるようにした。ただし、壁式構造であるため躯体には手を付けていない。

特に問題だった水回りは、狭く暗い上に換気扇もなかったため、トイレ、洗面・脱衣を一室とし、一つの窓を換気専用チャンバーに改装している。外からは窓にしか見えないところが秀逸である。

特に、インテリアのアクセントになっている洗面ボウル背後のモザイクタイルの壁は、細やかに色分けされており、白一色のインテリアに都会的な雰囲気を与えている。このモザイクタイルは配色数を変えて特注のキッチンにも貼られている。

外壁サッシは管理組合の了解を得て、すべて被せ型のサッシに変えてペアガラスを入れ、床や外壁にも断熱を施したため、温熱環境は格段に改善された。

緊急性がなかったため、相談から着工まで一年の間があったが、施主と設計者相互の信頼感を高め、人柄を熟知するのに有効に働いたようである。白一色のインテリアや、巾木や回り縁をなくしたすっきりとした納まりなどは、施主の清潔感覚やセンスの良さを見越せなくては提案で

きないデザインである。一年以上過ごした感想は、大変快適とのことで、文字通り「Comfort Box」になっている。

本作品は、ひとり住まいの施主であったことや、床下配管が可能という一階ならではの特殊条件なども重なった例ではある。しかし、一般的に苦勞しがちな古い公団・公社住宅のリフォームに対し、設計者は多くの障害を乗り越えて施主の満足のいくリフォームの実現に成功した。また、インテリアデザインも高いレベルにある。壁式構造の改装の可能性を広げたものとして高く評価したい。

以上の理由によりマンションリフォーム特別賞に推薦した。



リフォーム前



リフォーム後



① リフォーム前

② リフォーム前



③ リフォーム前



④ リフォーム後



マンションリフォーム
特別賞
(尚明賞)

第20回 住まいのリフォームコンクール

Comfort Box

持家共同建

総合

リフォームの動機/設計・施工にあたって工夫したこと

施主の要望はシンプルなプラン・内装で、快適に過ごせる清潔感のある場所とすること。音楽を聴きながら日常を営めるようなキッチンと一体化したスペース・映像を楽しむスペース。この2つをメインとして考える。というものだった。

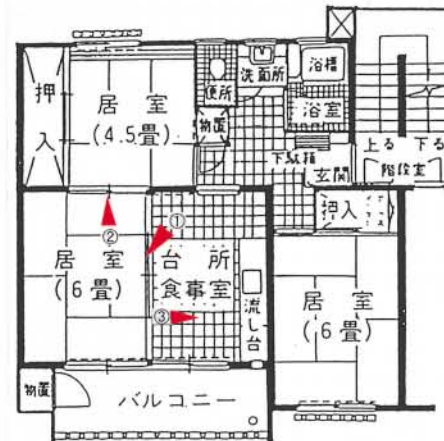
大きなテーマとなったのは空間ボリュームが制約される中でどんな素材を組み合わせてやさしく包まれながらも快適で清潔感のある場所とするかだった。このため材料の選定には吟味を重ねている。

プラン的には室1と室2を最大限確保して要求の場とし、水廻りはコンパクトに、あくまで使いやすさを重視した。キッチン

廻りに居る時もソファーに座った時も互いの場所を見渡せ、かつ外部の景色が見える配置としている。また、生活の中心となるダイニングテーブルはキッチンと高さを揃え、一体感を出すとともにアイランド型としても使えるよう配慮した。

計画を進める上で問題となったのは躯体には一切手を加えてはならない。という規約があった為、ほぼすべてを新しくする諸設備の配管・配線ルートをかかして確保するかだった。これについては空間に影響のない範囲でパイプスペースや壁ふかし等を設けて対応した。

リフォーム前



リフォーム後



データ

所在地	神奈川県横浜市青葉区		築後年数	35年
構造・築年数	鉄筋コンクリート造		総工事床面積	52.42 m ²
工事面積	該当面積	52.42 m ²	総工事費	700万円
居住者構成	1人(大人)	1人(うち高齢者)	人/子供	人/ベット
竣工時期	平成	14年	5月	
設計・工事期間	実設計期間	60日間	施工期間	50日間
工事費	該当部分	700万円	総工事費	700万円
設計者	U設計室 一級建築士事務所		担当者名	白井 徹、白井 葉子
施工者	(株)セキグチホームテック		担当者名	井上 瑞穂